

スイートコーン新品種 「ミエルコーン89」

(試作系統名 SW-195Y)

雪印種苗株式会社
園芸作物研究グループ
野菜研究チーム
平田 諒

の特性と栽培のポイント

1.はじめに

夏を代表する野菜として幅広い年代に人気があるスイートコーンですが、近年は局所的なゲリラ豪雨や突風、時期外れの台風など、これまでに経験したことがない異常気象の影響を受け、多くの産地で「倒伏」が問題となっています。受粉時期や収穫間際に倒伏することが、先端不稔の発生、収量の低下、作業性の低下などにつながるため、近年では倒伏に強い品種を求める声を多く聞きます。今回紹介する「ミエルコーン89」はそのような要望にお応えした耐倒伏性に優れて栽培しやすい高温期収穫向けの品種です。その特性と栽培のポイントについてご紹介いたします。



▲ 収穫間際の力強い草姿



▲ 耐倒伏性を裏付ける根張り

2.「ミエルコーン89」の特性

①熟期

一般地・暖地において、播種から収穫までに89日前後を要する中生の黄色種です。北海道や高冷地のような冷涼地域では、播種後103日程度かかります。

②草姿の特性

低温期での初期生育はおとなしいですが、温度が上昇してくる生育後半は生育が旺盛となります。分けつは少ない方ですが、根張りは非常に強く、莖も力強い

ため、耐倒伏性に優れています。これらの点から、収穫作業も行いやすく、作業効率が高いです。

③穂の特性

穂はやや長めで、茎葉を十分に作ることで450g/本以上の重量感ある大穂を収穫することが可能です(表1、2)。高温期栽培で歩留まりを下げる要因となる先端部の露出がほとんどないのが特徴で、先端の実入りも比較的良好です。また、粒色が濃く、粒列の並びもきれいなため、見栄えが良いです。



▲ ボリューム感があり、粒列・穂形の揃いが良好



▲ 他品種が倒伏しても力強く伸びる草姿
左:「ミエルコーン89」 右:他品種

④食味

甘みが強く、食味の評価が高い品種です。果皮は若干硬い方ですが、食味が低下しにくい特性があり、おいしく食べることができます。また、収穫後に問題となる「しなび」が出にくいことも特徴です。

①作型

地域ごとの作型は作型表に順じます。(表3)中でも、特に特性を発揮する作型は温度が上昇してくる露地マルチ以降となります。一般地から暖地は4月中旬以降、北海道や高冷地は5月以降の露地マルチから露地での栽培が最適です。トンネル栽培からの利用も可能ですが、中生品種のため、低温期の初期生育がおとなしい傾向があります。播種期が特に低温となりやすい促成栽培では十分な地温が確保できるように透明マルチや銀ネズマルチの利用を推奨します。また、高温期栽培向けとして、一般地の5月播き以降

の作型適性について現在検討しております。

②栽植密度

大穂を収穫するために、栽植密度は一般地から暖地で3,800株/10a、北海道や高冷地では3,500株/10a程度が目安となります。

③肥培管理と土作り

中生品種で生育期間が長いいため、生育後半に肥料が少なくなると、穂のサイズダウンや包皮色が淡くなることがあります。そのため、肥培管理は追肥を重視した設計として、生育後半まで肥料を効かせるようにします。全施肥量の60%程度を基肥で施用し、40%は追肥で施用します。地温が低い促成栽培では肥料の効きが悪いため、基肥をやや多めとします。(表4)

追肥の時期は幼穂が形成される5~6枚期と雄穂抽出期の2回、NK化成肥料などで行うようにしてください。追肥の時期に圃場が乾燥していると先端不稔の

原因となります。保水性の良好な圃場を選定し、堆肥や緑肥などの有機質を施して適切な土壌水分を保つようにしてください。過度に乾燥している場合は灌水をおこなってください。

④収穫

収穫時期は、一般地